

# 静岡県自然ふれあい施設

自然ふれあい施設は、全国で自然ふれあい活動の機会を提供している施設です。

公共施設としては、  
国立・国定公園内にあるビジターセンター、  
自然観察の森、環境と文化のむら、  
ふるさといきものふれあいの里、  
ふるさと自然のみちなどの施設があります。



## 天竜の森

天竜の森は、浜松市天竜区春野町と佐久間町にまたがる竜頭山を中心とした約95haの県営林を整備した森林です。大きく「仙人(そまびと)の森」「野鳥の森」「修験の森」の3つの森に分かれ、春の新緑や秋の紅葉など四季折々の表情が楽しめます。

交通案内：東名浜松 I.C. より約2時間  
JR 浜松駅より国道152号線経由で約2時間30分  
東名袋井 I.C. より約2時間  
JR 袋井駅より約2時間30分  
お問合せ：静岡県西部農林事務所天竜農林局森林整備課  
浜松市天竜区二俣鹿島 559 TEL 053-926-2314

## 県立森林公園

県立森林公園は、森林レクリエーション活動や自然学習の場として、天然のアカマツ林を主体とした豊かな自然に恵まれた浜松市根茎、尾野の県営林(215ha)に1965年に開設されました。ビジターセンター・バードピア浜北は、自然と人との「共生」を基本理念とし、鳥類を中心とした自然に関する情報を発信し、四季折々の新しい情報を提供しています。

交通案内：東名浜松 I.C. より約30分 JR 浜松駅より約40分  
連絡先：バードピア浜北  
浜松市浜北区尾野 2597-7 TEL 053-583-0443  
開館時間：9時00分～16時30分  
休館日：毎週水曜日(祝日の場合はその翌日)  
年末年始(12月29日～1月3日)  
入館料：無料

## 榎原ふるさとの森

榎原ふるさとの森は、昭和40年代までは谷津田や薪炭林などとして利用される明るい里山でした。その里山の自然を取り戻すため整備されたのが「榎原ふるさとの森」です。

交通案内：東名相良牧之原 I.C. より約20分  
東名吉田 I.C. より約30分  
JR 金谷駅より約15分  
お問合せ：静岡県志太榎原農林事務所森林整備課  
藤枝市瀬戸新屋 362-1 TEL 054-644-9243

## 県民の森

県民の森は、県政百年を記念して整備された野外レクリエーション施設で、静岡市北部の井川・梅ヶ島地区にまたがる尾根沿いの約1,000haの地域です。

県民の森センター、キャンプ場などの施設は、富士見峠から約9km、豊かな大自然の懐にあります。  
交通案内：静岡市街から井川方面へ50km、車で1時間45分  
連絡先：県民の森管理棟  
静岡市葵区井川 TEL 054-260-2214  
受付時間：9時～16時(火曜定休、ただし7～8月は無休)

## 昭和の森

昭和の森は、昭和天皇の在位50年を記念して、林野庁が指定した自然に親しめる森です。伊豆天城山一帯の国有林1,600haがその範囲に入り、昭和の森会館を起点に、踊り子歩道や野鳥の森、八丁池など、様々なハイキングコースがあります。

交通案内：東名沼津 I.C. より約1時間  
伊豆箱根鉄道修善寺駅からバス約35分  
連絡先：昭和の森会館  
伊豆市湯ヶ島 892-6 TEL 0558-85-1110  
開館時間：8時30分～16時30分(3月～10月) 9時～16時(11月～2月)  
休館日：第3水曜日 年末年始(12月29日～1月1日)

## 遊木の森

遊木の森は、静岡市の市街地に近接する有度山丘陵(中日本平地区)の県有地に、森林環境教育の実践の拠点として開設されました。遊木の森では、自然に親しみ、里山や森林とふれあう楽しさを伝えます。また、里山や森林の持つ役割や機能、その現状を伝え、里山や森林についての理解を深めます。さらに、周辺の暮らしや、生活の知恵、地域の歴史や文化など、人々の生活や環境と里山や森林との関係についての理解を深めます。

交通案内：東名静岡 I.C. より約30分 JR 静岡駅よりバス約40分  
お問合せ：静岡県くらし・環境部環境局環境ふれあい課  
静岡市葵区追手町 9-6 TEL 054-221-2848  
開館時間：9時～17時(3月～10月) 9時～16時(11月～2月)  
年末年始休館

# 日本平 遊木の森



## 植物みどころガイド



## 遊木の森とは

遊木(ゆうぎ)の森は、森林環境教育の実践の拠点として2006年に開設された里山体験施設です。静岡市の市街地に近接する有度山丘陵(中日本平地区)の県有地約18haに、バッタの原っぱを中心にしたはらっぱと、里の家を中心に野菜などを育てる谷戸部(やとぶ)があり、現在、運営受託NPO、地域、行政の三者が協働で役割を分担し、整備・管理運営をしています。遊木の森では、自然に親しみ、里山や森林とふれあう楽しさを伝えます。また、里山や森林の持つ役割や機能、その現状を伝え、里山や森林についての理解を深めます。さらに、周辺の暮らしや、生活の知恵、地域の歴史や文化など、人々の生活や環境と里山や森林との関係についての理解を深めます。

遊木の森では、一緒に子どもたちへの森林環境教育を通じた「人づくり」に取り組んでいたいただけるパートナー(企業)を募集しています。また遊木の森では、年間を通じて様々な自然体験プログラムを用意しています。詳しくは遊木の森HPまたは、静岡県環境ふれあい課までお問い合わせください。

■静岡県環境ふれあい課 TEL.054-221-2848

## 植物ごぼれ話 ……年をとると丸くなる葉っぱ

隠蓀(カクレミノ)は、暖地の山などに生えるウコギ科の常緑小高木で、3つに分かれた葉っぱが「蓀」に似ていることが名前の由来です。しかし、このカクレミノは、葉っぱに変異が大きく、1本の木の中でも3～5つに切れ込んだ葉や、まったく切れ込みのない葉(全縁)がまじっています。一般的には、若い木の葉は切れ込みが深く、老木になるにつれて切れ込みがなくなっていきとされます。7月から8月頃緑色の目立たない花を咲かせ、実は冬に黒く熟します。



カクレミノ



ところで、年をとると丸くなる葉っぱといえば、ヒイラギが特徴的です。ヒイラギはモクセイ科の常緑低木で、葉の縁に鋭いトゲ(歯牙)があります。ところがこのトゲは、幼いほど鋭く、老木になるとトゲが少なくなると、最後にはトゲのない葉(全縁)になってしまいます。ヒイラギといえばトゲトゲの葉を思い浮かべていた人には、トゲのなくなったヒイラギは見分けられないでしょう。これは、幼いころは樹高が低く、草食動物などに食べられる危険が高いためトゲで武装する必要があるが、成長して樹高が高くなればトゲを持つ必要がなくなるからと考えられています。しかし、カクレミノの葉っぱは、トゲで武装しているというわけでもないのに、なんで年をとると丸くなるんでしょう? そういえば人間も、年をとると丸くなるといわれますね。